



まもるポ

Vol.5
2019.12月

森を守る 9月市会「市長総括質疑」

Q 副委員長(森田守) 京北小中貫教育

校の建設工事で発生する残土の仮置場の設置を巡る経緯ですが、昨年度、教育委員会が約1000万円掛けて国道162号線から当該仮置場まで、数百メートルの里道舗装を行いました。この舗装工事が完了した後になって、当該仮置場が過去に廃棄物の埋立処理場として使用されていた土地であることが判明したために、本来、最初に行うべき精査を工事完了後に行い、その結果、仮置場として不適格だということが判明し、使用を断念されました。当初の精査を怠った結果、市民が通行することのない、不要な舗装工事に多額の費用を投入して、今後の維持管理についても京都市の建設局で行わなければならないという結果となりましたが、京都市内において、里道だとか、私道の舗装工事の要望というのは多くありますが、京都市が全額負担してできるということは、まずありません。この件についての御所見をお伺いします。

A 市長(門川大作) 今御指摘のことについて、

私は、私自身も残念なことだと思っております。工事が終わってからサブグラウンドとして使う所に、盛土をしなければならぬ。そのために、今削っている土を仮置きする。このことで4700万円掛かるところが、3000万円くらい安く上がるので、学校の近くに仮置場を確保して、後でそれを使おうという構想であったようにございます。

Q 副委員長(森田守) 人口減少、そして

高齢化に歯止めがかからない、地域の活性化は喫緊の課題の山間地域ですから、私もこれだけの予算はもっと有効な施策に使えるべきだと思っております。この点指摘をしておきます。

A 市長(門川大作) 間伐材を山から運

び出して、ペレットにして、それをボイラー、あるいはストーブに使っていく、環境先進都市として、また非常に森林の多い地域として、構想自体は私はすばらしかったと思います。しかし、コストが高くつくということで、灯油とか重油とか、化石燃料に頼っている方がコストとしては大きく違う。あるいはペレットでも、カナダから入ってくると、値段が倍くらい違う、こんなことになっております。

次は、京都市が林業重点施策として位置付ける木質ペレットの取組が始まってから、丁度昨年度の決算で10年が経過いたしました。木質ペレットストーブ、そして、ボイラーの普及を促進して、市内産木材の普及促進と、低炭素社会の実現を目指す事業ということなんです。10年間を振り返りますと、市内産木材の情報発信強化事業や、木質ペレットストーブ、そしてボイラーの設置導入補助事業を長年行ってこられました。木質ペレット生産量は、昨年度、943トンから723トンに、前年を2割以上も下回りました。灰の処理のメンテナンスの大変さとか、海外産ペレットと比較すると2倍近く

例えばペレットボイラーは京都市分庁舎に導入されていますけど、通常のガスの空調と比べると1年間で少なくとも20万円以上は余分に費用が掛かっているとの試算が出ております。極めて低いコストパフォーマンス、市内産木材の普及促進のためとはいえ、この事業について10年を区切り、私は一度立ち止まって考え直すことが必要じゃないかと思っています。環境政策についてはもちろん費用対効果で語れない部分があるのも十分承知していますが、この事業についての10年間の総括を伺います。

A 市長(門川大作) 間伐材を山から運

び出して、ペレットにして、それをボイラー、あるいはストーブに使っていく、環境先進都市として、また非常に森林の多い地域として、構想自体は私はすばらしかったと思います。しかし、コストが高くつくということで、灯油とか重油とか、化石燃料に頼っている方がコストとしては大きく違う。あるいはペレットでも、カナダから入ってくると、値段が倍くらい違う、こんなことになっております。

ただ、この事業そのものは、間伐材をいかに有効にいかしていくかということで、将来に向かって様々な可能性も秘めていることだと思います。令和2年まで、年3500トンのペレットの生産をしていこうという目標でしたが、現実には1000トンに及ばないという状況であります。最近また新しい状況が出てきて、京都府内でも、バイオマス発電などができてきております。バイオマス全体で計画を達成していこう、そういう議論も環境政策等で行っておりますので、ペレットもいかにしながら、幅広い山間地域の林業の振興に、そして、CO₂削減の効果的な取組に転換させていきたいと考えております。



10月19日 京都新聞

格差があると言われている単価、

森田 守
プロフィール

昭和50年 6月15日生まれ
平成6年 同志社香里高等学校卒業
平成10年 同志社大学法学部法律学科卒業

平成10年 ㈱セブンイレブン・ジャパン入社
平成16年 参議院議員二之湯智秘書
平成27年 京都市議員初当選

平成31年 京都市議員2期目
家族構成 妻、子ども5人の7人家族
趣味 スキー、アウトドア、マラソン

